

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	富山県			代表者名	新田 八朗
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	職員キャリア開発支援センター	連絡先電話番号	076-432-4974
担当者役職	係長	担当者氏名	上田 牧子	連絡先E-mail	
住所	930-8501 富山県富山市 新富町1-2-3 CiCビル6階				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	人材育成事業（チャレンジ講座開催事業）
概要	社会情勢の急速な変化に伴う複雑化・高度化した行政課題に対応する必要や、人口減少社会において人材獲得競争が激化している現状を踏まえ、DXを推進して業務の質や生産性を高めるため、県主催の「チャレンジ講座」において、県及び市町村職員のチャレンジ精神の醸成や、行政サービスの質の向上を図るノウハウの習得についてご支援いただきたい。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） EBPM（エビデンスに基づく政策立案）働き方		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年5月30日	講演(実地)	9時00分	17時00分	60
				活動時間（分）	420
2-2. 派遣場所	会場名	職員キャリア開発支援センター研修室1	最寄駅	富山駅	
	所在地	富山県富山市新富町1-2-3 CiCビル5階	最寄駅からの交通手段	徒歩	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	池田 昌人	
評価	大変良い	
上記評価の理由 （どのようなところがよかったか等詳細に）	受講後アンケート回答者の9割以上が「大変良い」と回答している。 （主な意見・感想） ・周囲を巻き込んで業務を前に進めるための考え方や方法について体系的に理解することができ、大変有意義である。 ・理論、失敗事例、成功事例、グループワークによる実践がうまく組み合わさっており、知識ゼロでも腑に落ちる内容ばかりである。 ・大変良い、目から鱗な話がいくつもありません。参加して良かった。同僚にも勧めたい。 ・自分の意識の捉え方、考え方の参考になる、素晴らしい研修でした。 ・池田さんの人となりや伝えたいことがよく分かりました。とても熱くて面白い研修でした。	
アドバイザーへの要望事項	本講座が来年度も続けられれば、再度ご講義いただきたい	

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	28人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	28	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本県では、令和5年2月に策定した「富山県職員人材育成・確保基本方針」に基づき、少子高齢化の進展・生産年齢人口の減少、個人のライフプラン・価値観の多様化、大規模災害・感染症などの新たなリスクの顕在化、デジタル社会の進展など、社会情勢が急速に変化し、職員が直面する行政課題も複雑化、高度化する中で、「チャレンジできる県庁」、「チャレンジを積み重ね『より良くする』職員」を目指している。特に、デジタル技術を有効に活用して業務変革などを推進し、行政サービスの質を向上させる必要があり、デジタル技術を駆使して変革を推進できる人材が不可欠となっている。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	令和7年度末には、講座受講者一人ひとりが業務変革へのチャレンジを描いていること。 令和10年度末には、職員が自発的に学び、チャレンジし、改善し続ける姿勢を持ち、デジタル技術を活用した業務変革に積極的に挑戦していることにより、行政サービスの質が向上し、県民のウェルビーイングの実感につながっていること。

アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	上司との合意形成などを広く「企画」ととらえ、効果分析表や各種フレームワークを活用して企画書を作成する方法 相手の期待値を超えることの大切さ AIは万能ではないが、適材適所で活用すると効果的であるということ 目標・ビジョンを持ち、常に頭の隅に置いておくこと まずはやってみることが大切であるということ 何かを変えるには、意識を変える必要があるということ、などについてご教示いただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	受講後アンケートでは、96%が「チャレンジマインド（業務改善やDXに対する意欲を含む）」が「大変高まった」「高まった」と回答しており、「チャレンジを積み重ね『より良くする』職員」の育成に一定程度の成果があったと考える。 また、同アンケートに記載された意見の中には、業務改善やDXに取り組む意欲を高めた者が複数見られ、心理的ハードルの高かったこれらのことにチャレンジしようという機運が高まった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 全4回講座の1回目であり、具体的・物理的な成果物はないが、アンケート回答者の96%が、「チャレンジマインド（業務改善やDXに対する意欲を含む）」が「大変高まった」「高まった」と回答しており、今回の講座を受講することでチャレンジへの意欲・スキルが向上した。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	向上したチャレンジ意欲・スキルは、今後、それぞれの職場で業務に活かしてもらうこととしている。さらに、第2回、第3回の講座受講を経て、第4回のワークショップでは、自分で実践したいチャレンジ（業務改善やDXなど）を企画してもらうこととしている。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 研修全体の評価については、回答者全員が「大変良い」「良い」と回答しており、好評であった。特に、講師の話し方については、全員が「大変良い」と回答した。 また、アンケート回答者の96%が「チャレンジマインド（業務改善やDXに対する意欲を含む）」について「大変高まった」「高まった」と回答し、今回の講座開催の目的が一定程度実現された。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する 第2回では民間企業社員から民間のチャレンジ事例を学ぶ講座、第3回では民間等との協働意識を身に付けるワークショップ、第4回では県庁内で既にチャレンジしている若手職員からアドバイスを受けながら、自分の実践したいチャレンジを考えるワークショップを予定している。
4－4. 事業の最終的な目指す姿	令和7年度末には、講座受講者一人ひとりが業務変革へのチャレンジを描いていること。 令和10年度末には、職員が自発的に学び、チャレンジし、改善し続ける姿勢を持ち、デジタル技術を活用した業務変革に積極的に挑戦していることにより、行政サービスの質が向上し、県民のウェルビーイングの実感につながっていること。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可

☐掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

